

## 2) 海洋文化資料の管理保存に関する調査

板井英伸<sup>1</sup>

キーワード：海洋文化 海洋文化館 資料調査 管理保存技術 資料データベース

### 1. はじめに

本事業では令和4年度に引き続き、海洋文化館の展示・収蔵資料の取扱い・点検・管理方法を確立するために、展示・収蔵資料の状態調査を行うとともに、既存の資料リストの内容について精査し、その校訂を行った。

また、海洋文化館の展示・収蔵資料に関する学術的調査を実施し、外部からの問い合わせにも対応した。

### 2. 海洋文化資料の管理保存に関する調査

本調査の目的は、海洋文化館の資料を適切に管理・保存することにより、同館の安定的な運用を保証し、かつ研究施設としての財団の実績を蓄積して、資料の管理保存に関する役割を確立することにある。また、同技術を資源化することによって、将来の事業化も期待できる。

以上について、海洋博公園管理センターなど財団内の関係部署と協力して対応するとともに、調査を継続して基礎データの作成・蓄積に努め、実用的な管理マニュアルの策定と実践を目指す。

過年度のデータから夏期の館内湿度に問題があることが分かり、今年度の8月29日～9月5日には夜間通風を停止して高温多湿の外気の侵入を防止する実験を行ったほか、9月12日～19日には同じく夜間に冷風導入実験を行って、展示資料の適切な保存のための環境改善方法の策定に着手した。なお、期間中は随時、資料の状態を調査し、資料リストを更新した。

7月11日には一部の展示資料に発生したカビについて調査し、専用の展示ケースを製作して展示環境を改善すべく、国との協議を開始した。

12月6・7日には海洋文化館の全館燻蒸作業を行った。また、生物レプリカや染織資料など管理外物品を整理、展示室及び収蔵庫内の環境を改善した(写真-1)。

### 3. 収蔵・展示資料調査及び外部問合せ対応

沖縄工業高等専門学校、東京学芸大学、沖縄インターナショナルスクール、琉球大学、明治学院大学、関西学院大学、南城市・國建、都留文科大学など、大学をはじめとした教育機関や企業からの要請

に応じて海洋文化館の展示室並びに収蔵室を案内し、展示や収蔵資料に関する問い合わせに対応した。

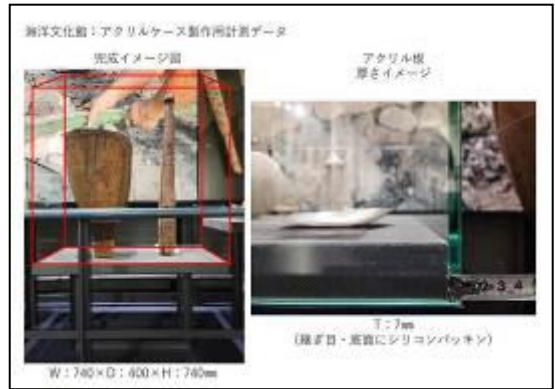
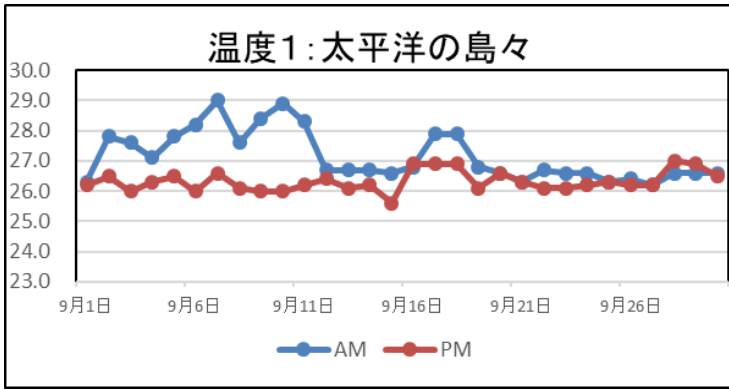
沖縄の祭事の一環として行われる漁撈に関する調査を多良間島および久高島で実施し、12月24日～1月28日に海洋文化館で、行政や自治会の協力・後援を得て企画展を開催した(写真-2)。

### 4. 外部評価委員会コメント

海洋文化館の展示場と収蔵庫の資料管理と環境改善の方策を策定して的確に実践し、また全館燻蒸を実施するなど資料保存の着実な環境整備は評価される。海洋文化データベースの拡充および展示資料の図録作成に向けた準備作業を進めることが強く期待される。(須藤顧問：堺市博物館館長)

資料保存について、着実に取り組んでいるように思われる。予算執行が0%のようだが、その理由は何か。資料調査についての要望としては、コロナの状況から改善され海外との行き来ができるようになったので、来年度以降は海外調査なども企画してほしい。ミクロネシアの伝統航海術が無形世界遺産になったこともあり、東京文化財研究所や堺のユネスコ「アジア太平洋無形文化遺産研究センター」が最近のカヌー復興運動に関する調査者の派遣を行っているので、連携を考えてみてはどうか。(後藤顧問：南山大学教授)

<sup>1</sup>企画運営課



図左：展示ホール温湿度推移グラフ（温度） 図右：資料保護用アクリルケース製作調整用資料



写真-1 全館燻蒸状況



写真-2 企画展会場